

## 5 変形性関節症に対するグルコサミンの効果

○坂本廣司、高森吉守、森 隆利

(甲陽ケミカル)、梶本修身(大阪外大・保健管理センター)、梶谷典正(広島大・医)、今西利之(白井病院)、松尾龍之介(松尾クリニック)、梶谷祐三(梶谷整形外科)

〔目的〕変形性関節症とは中高年の骨関節疾患の中で、腰痛と並んで最も多いのが膝関節痛である。その大部分は変形性関節症(Osteoarthritis:OA)とされている。グルコサミンの医療分野での応用については、経口及び注射による投与が急性及び慢性の関節炎の治療に有効なことが知られており、その硫酸塩はヨーロッパにおいてはOAの治療薬として使用されている。さらに欧米の食品業界においては栄養補助食品として硫酸塩と塩酸塩の両方が活用されている。グルコサミン硫酸塩のOAに対する治験例はヨーロッパにおいて数多くの報告がある。しかしながら、塩酸塩についての報告はない。

ここではグルコサミン塩酸塩についての実証をOAの診断基準を満たす整形外科外来受診中の男女患者50名で、グルコサミンを食品形態に加工して臨床試験を行なった。

〔方法〕供試食品は50ml/本の飲料とし、その中にグルコサミン塩酸塩を0g, 0.5g, 0.75g/50ml配合した。投与方法はプラセボとのダブルブラインド・クロスオーバー法を用いた。被験者を無作為抽出法で3群に分け3種類の供試品を1日当たり2本、グルコサミン塩酸塩として0g, 1.0g, 1.5g/日 8週間投与した。評価は投与期間中4週間ごとに主治医が診察して経過を観察し、日本整形外科学会制定の「変形性関節疾患治療成績判定基準」に従い判定した。さらに、日常生活動作、夜間自発痛、圧痛についても評価した。

〔成績〕グルコサミン塩酸塩1.0g及び1.5g/日いずれも投与開始後4週間目に有意な改善効果がみられ、8週間投与の方が更に改善率が高く、その効果は用量に依存していた。

〔結論〕経口摂取されたグルコサミン塩酸塩は消化管上部において速やかに吸収されて血液中に入り、グリコサミノグリカンとなり、関節機能に作用し、OAの進行防止や予防に役立つものと考えられる。